

死刑がないと不安ですか？

国際世論と国内世論

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

1位	中国	1718+
2位	イラン	346+
3位	サウジアラビア	102+
4位	アメリカ合州国	37
5位	パキスタン	36+
6位	イラク	34+
7位	ヴェトナム	19+
8位	アフガニスタン	17+
9位	北朝鮮	15+
10位	日本	15

これは何の順位だと思われましたか。人口の多い国の順？ オリンピックのメダルの数？ 実は、アムネスティ・インターナショナルの調査による2008年の世界の死刑執行数が多い国の順です。数字はその年に執行された人の数で、+の記号は、それ以上の公表されていない執行があったかもしれないという懸念を示しています。

☆☆☆

世界では死刑廃止国が年々増加していて、2008年末の段階では死刑存置国は78カ国になりました。その中でも、実際に執行を行った国は25カ国にすぎません。

日本では1993年以降、執行のない年はありませんでしたが、それでも、年間の執行数はほんの数人だった時期が長く続いていました。それが2006年4人、2007年9人と増加しだし、ついに2桁の執行数を数えるようになった2008年には、日本は執行数の世界ベスト（ワースト？）10に入ってしまったのです。この後には、イエメン（13+）、インドネシア（10）、リビア（8+）、バングラデシュ（5）、ベラルーシ（4）、エジプト（2+）と続きます。17位以降は25位までは（1）か（1+）の同数で同位です。厳罰で有名なシンガポールや、政情不安が伝えられるスーダン、ミニ国家のバーレーンやセントクリストファー・ネイビスなどが含まれています。

こうしてみると、日本の年間15人執行という事態は、かなり異常な国情を示しているように思われませんか。

☆☆☆

死刑は、刑罰とするには残酷で野蛮に過ぎるものであるという認識が世界中で深まっています。犯罪の予防にも役立たず、確実に冤罪を回避することもできない、およそ、人道的な社会で用いるべきではないと。

それでも何故か、日本国内では「世論」の圧倒的多数の人が死刑賛成だと言われてきました。選挙になると、死刑反対の意見を持っている候補者も、それを強調すると票が減りそうだからと、その宣伝を躊躇するほどでした。日本の「世論」と国際「世論」のこのギャップはどうして生まれるのでしょうか。

☆☆☆

「政権交替」のたまものと言うべきか、今回、鳩山新政権は、かねてより死刑制度に反対の意思を示して

きた方を法務大臣に任命しました。死刑を求める人々から新法務大臣への攻撃がすでに始まっているようですが、死刑に反対の思いを持つ人々もまた、けっして少なくないことを伝えあっていこうと思います。